

飲酒運転の怖さ 体験談から学ぶ

豊見城で講習会

【豊見城】豊見城警察署、壺川自動車学校、FMとよみが共催した飲酒運転講習会が1月28日、同自動車学校で開かれた。FMとよみのパーソナリティーが、死亡事故を起こした女性の体験談に耳を傾け、飲酒運転の恐ろしさを学んだ。

女性の体験談は後日FMで放送予定。講習会で、実際に飲酒し、教習コースを走った荷川取尚樹さんは「とっさの判断ができないことが分かった。体験を自分の番組で紹介し、飲酒運転根絶を呼び掛きたい」と話した。

(内間弘通信員)

2012年2月8日(水) 沖縄タイムス

「飲酒運転 危ない」 FMとよみ社員ら体験



FMとよみのパーソナリティーらが、飲酒運転の恐ろしさを実感した取り組み。1月28日、豊見城市の壺川自動車学校

【豊見城】「身を持つて体験・飲酒運転」(壺川自動車学校、豊見城署、FMとよみ共催)が1月28日、豊見城市の壺川自動車学校で開かれた。FMとよみ社員やパーソナリティーら約20人が、飲酒後、教官の付き

判断力の低下、視界の見えづらさを実感。それぞれの番組で飲酒運転防止を訴えることを目的に開催された。

乗車後、パーソナリティーのアンドレイ・チュリロフさんは「お酒が入ると反射神経が落ちる。(運転は)大丈夫という気持ちが出るので危ない」と感想を語った。

参加者は乗車体験を前に、2009年に県内の国道で飲酒運転による交通死亡事故を起こした女性の講話を聞いた。服役を終えた女性は、

2012年2月14日(火) 琉球新報

被害者や遺族に対する謝罪の気持ちや頭から離れず、今でも眠れない日があると語り「つらく申し訳ない気持ちでいっぱいになる。一生懸けて罪を償いたい」と心境を吐露した。

死のうと考えたこともあったが、飲酒運転による事故で親を失い、現在は飲酒運転防止の啓発活

動をする人と出会い、公の場で体験を基に飲酒運転の恐ろしさを語るようになった。

女性は「飲んでも大丈夫という思いが事故につながる。代行やタクシーを使って帰ってほしい。わたしは多くの人を苦しめた。自分のように多くの関係者を悲しませないでほしい」と訴えた。